

原子力発電所支援のための体制強化（保守グループの設置）

発電所支援に関する状況

< 現状の評価(プラス面) >

発電所員へのヒアリング結果を見ると、組織改正により要員増強の実感が強く、発電所の体制は改善してきている。

【意見例】

・組織改正により発電所保守要員が増強されたことなどもあり、作業前打合せや現場での協力会社とのコミュニケーションの機会が増えた。

また、協力会社からの改善提案にも迅速に対応できるようになった。(発電所員)

組織改正後、美浜発電所保守要員の恒常業務の時間外数が約3割減少している。

(事故前:約30時間/人月 組織改正後:約21時間/人月)

< 現状の評価(マイナス面) >

原子力事業本部は直接発電所の状況を把握できるようになってきているものの、保守関係業務において支援が不足している面が認められる。

【意見例】

・従来は旧若狭支社が発電所の相談事や問題を整理して事業本部に上げていたが、事業本部では各グループが様々な役割を持っており、発電所から事業本部に保守関係業務の相談をする際に、一元的に受けとめる窓口がない。(発電所員)

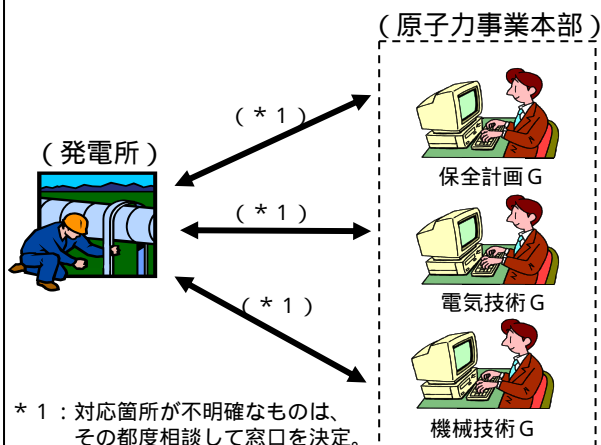
・美浜3号機事故以降は、再発防止対策に全事業本部をあげて取り組んでおり、特に、事業本部の保守関係業務を担当するグループにおいては、再発防止対策と発電所支援業務等が輻輳している状況にあり、発電所支援が十分にできていない。(事業本部社員)

保守グループの設置

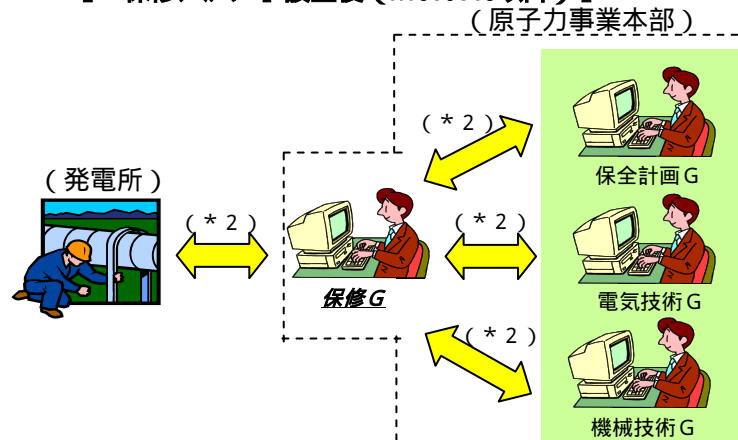
原子力事業本部に新たに「保守グループ」を設置

発電所の保守関係業務のうち、関連箇所が多岐に亘り、対応箇所が明確でない案件について窓口を統一することで発電所支援を迅速かつ的確に行う。(ワンストップサービスの強化)

【現行】



【「保守グループ」設置後 (H18.9.15以降)】



* 2 : 対応箇所が不明確なものについては、「保守グループ」が中心となって、対応箇所を決定し指示するとともに、支援状況の把握を行う。

原子力事業本部の窓口は、軽微な事項や窓口が明確なもの以外は、原則、保守グループに一元化。

< 期待される効果 >

・事業本部内の業務の流れが明確になることで、業務効率が向上し発電所支援体制が強化される。

原子力事業本部の組織の見直し

現 行

原子力事業本部

- 原子力企画 G
- 総務 G
- 発電 G
- 品質保証 G
- 燃料保全 G
- 放射線管理 G
- 安全防災 G
- プラント・保全技術 G
- 保全計画 G
- 電気技術 G
- 機械技術 G
- 高経年対策 G
- 安全技術 G
- 土木建築 G
- 原燃計画 G
- 原燃品質・安全 G
- 燃料技術 G
- 原燃輸送 G
- 原子力環境整備PT
- 原子力発電所
- ~

原子力発電所

- 品質保証室
- 安全防災室
- 所長室
- 技術課
- 原子燃料課
- 放射線管理課
- 発電室
- 保全計画課
- 電気必修課
- 計装必修課
- 原子炉必修課
- タービン必修課
- 電気工事 G
- 機械工事 G

「 保 修 グ ル ー プ 」 設 置 後 (H 1 8 . 9 . 1 5 以 降)

原子力事業本部

- 原子力企画 G
- 総務 G
- 発電 G
- 品質保証 G
- **保 修 G (新 設)**
- 燃料保全 G
- 放射線管理 G
- 安全防災 G
- プラント・保全技術 G
- 保全計画 G
- 電気技術 G
- 機械技術 G
- 高経年対策 G
- 安全技術 G
- 土木建築 G
- 原燃計画 G
- 原燃品質・安全 G
- 燃料技術 G
- 原燃輸送 G
- 原子力環境整備PT
- 原子力発電所
- ~

原子力発電所

- 品質保証室
- 安全防災室
- 所長室
- 技術課
- 原子燃料課
- 放射線管理課
- 発電室
- 保全計画課
- 電気必修課
- 計装必修課
- 原子炉必修課
- タービン必修課
- 電気工事 G
- 機械工事 G